

「フッフ…下僕よ、教えてやろう！」
私自ら女の味を教えてやろう！」

つねにオスの性技に、
いに獣が覚醒する…

とら★黒

アへ顔、ボテ腹、快樂墮ち！



「望みどおりいっぱいスポスポしてあげるよ!」

「あああのもっと激しく!」

「オヤオヤ、妊娠してるのにヤミちゃんも美柑ちゃんもほんとエッチだねえ!」

「どっつ、美柑ちゃん、気持ちいいかい?」
「はひひひひひ!...きもちいいすっつ!」

はっ

おぎ

びん

ズル

じゅん

ぐが

が

ズル

はっ

ズル

ズル

ズル

はっ



「~~~~~やみやみや、完全に堕ちたようだな!!」

「これで私の計画は成功したも同然だ。」

「あとは結城リトだな、
妹が行方不明になってさぞかし落ち込んでいるだろう!!」
「どれ少し顔を出してやるか。」

ひぎー

ひあぁ

「ネ、ネメシス…！ いったい何の用だ！」

「なんだ、気のない返事だな…！」

「妹が行方不明で意気消沈か？」

「…？ま、まさか…おまえ…！」

「ふふ、美柑ならヤミと一緒にいる、男どもに孕まされ幸せそうに腰を振っていたぞ。」

「…？」

「うあ！？か、体が！？」

「今お前の精神をジャックした、性欲を思う存分開放できるようにな！」

「メアのような高度なサイヨダイブは不可能だが、細かい操作が利かない代わりに効果は大きいぞ！」

「主人を満足させるのも僕の勤め、お前はこれから私のことだけ考えていればいいのだ。」





「うんっうんっ、や、やめろ……!」

ゾクッ

「ほお、意外と頑張るな、まだ理性があるのか?」

びくびくっ

ズルッ

にゅるっ

「これは、攻めがいがありそうだ!ゾクゾクするぞ!」

ゾク



「はむ、あむっ」

ん

ぐん

ぽ

ぎち

ぎち

(ふふ、強がっていてもペニスのほうは絶頂寸前か！
ビクビクと脈打っている。)

じん

「けほ…やれやれ、夫した量だなそれに濃厚だ。」

ひく

「はあはあ…き、気は済んだか…？み、美柑を返せ…！」

ドロ

びびび

びび

はあ

はあ

いん

「む…私とした事がどうやら攻めが甘かったらしいな…
今にその生意気な口を利けなくしてやる！」





おっ、おっ、

ギョッ

「……」

「ふむ、私が楽しむ前に終わってしまわないか少し心配していたが、一度抜いたくらいでは収まらない、いい心がけだ！下僕。」

どっ

じゅん



「ふーっふーっ…素晴らしいぞ
先ほどより量も濃度も増している…」

はっはっはっ

「あう…かはっ…！」

「おいおい、感じすぎて気絶するなよ？
まだまだ本番はこれからだぞ、結城リト。」

びゅん

しゅん

びゅん

ごきや



みちゅ

じゅちゅちゅ

びく

びく

じゅちゅちゅ

じゅちゅちゅ

「さて、そろそろお楽しみのお挿入だ！」

「光栄に思えよ下僕、私の膣で童貞を捨てる事が出来るのだからな。」

「ずぶぶぶー！にゆるるー！」

ズリユ

ズリユ

「うあああつー！！」
(な、なんだこれ！？一気に飲み込まれて、気持ちよすぎる！！)

ほめ

ぶちゅ

ニリカ

くっ

ゾク

ゾク

「くっくっくっー！！これは、予想以上に、臍に食い込んで、癖になりそうだ！」

びん

「うっうっ、射精るうっうっ！」

「むっっ?..おいおい!!
大して動いてもいけないのにもう我慢できないのか?」

ブ
ッ
ッ
ッ

ト
ッ
ッ

ロ
ッ
ッ

ビ
ッ
ッ

「出し方も全然なってるぞ!!」

「膣の入り口で出してどうする!!」

「出すなら亀頭を子宮口に密着させて射精しろ!!」

い
っ
っ



はははは

はは

はは

はは



「がああああああ!!!」

んんん

んんん

んんん

「なっ……っ」

んんん

んんん

んんん



ビュッ

グチュッ

ドッ

かほ

あーっ

「ひぎゅああああ……あきひぎゅあ……」

(ま、まさか……ありえな……) 「子宮口を……開けてそのまま中に射精を……」

「……」

ボッ

ボッ

ビュッ

ギン



「ふむふむっ……」

うおっ

ドゴ

「ふぎ……うっ……」

ドク

ゴビョ

ビョッ

「屈辱的だ……まさか下僕に子宮だけでなく
尻の穴まで蹂躞されるとは……」

ガッ

カッ



「んっ…」

うん

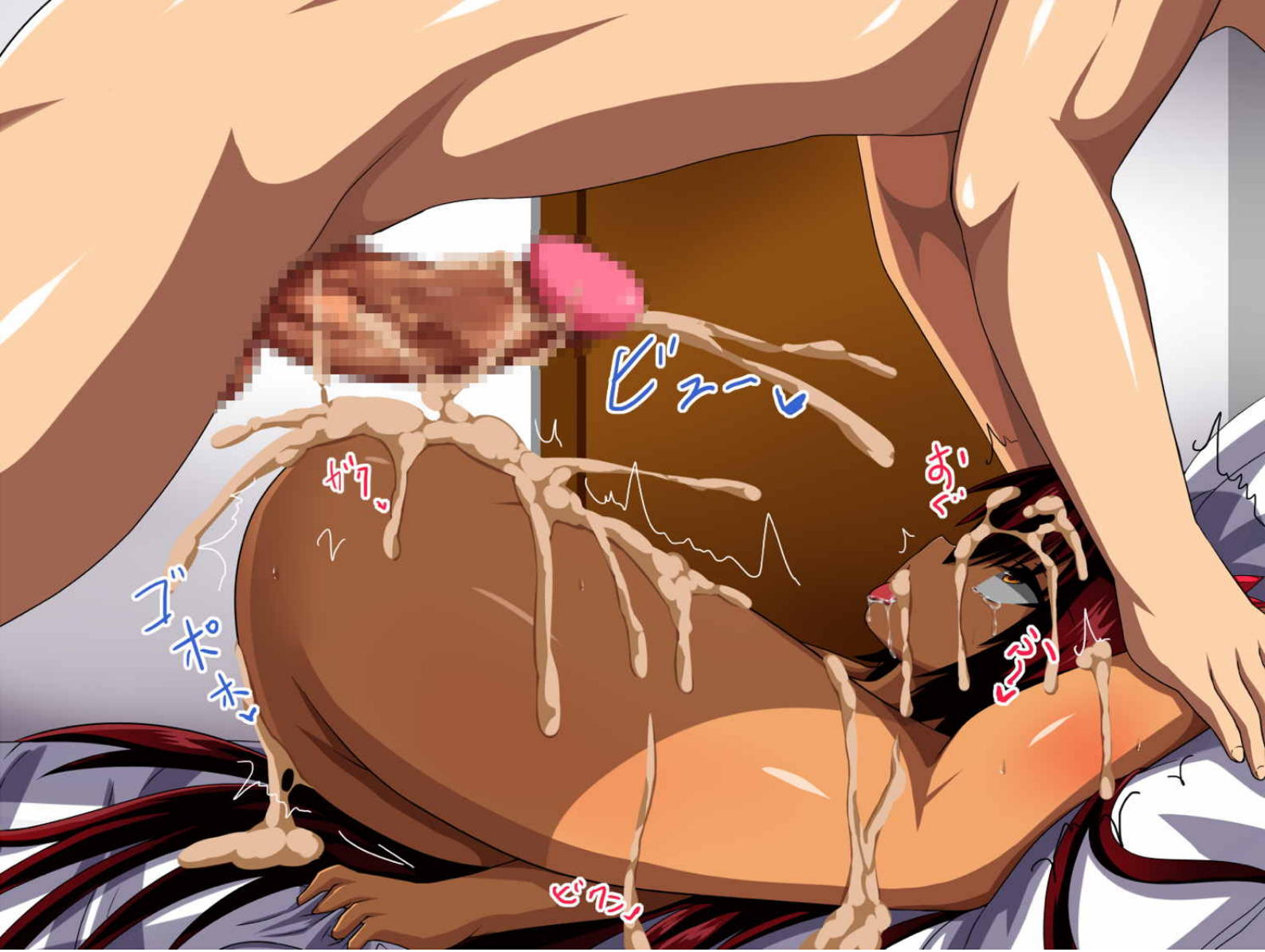
くちゅ

ドキッ

んんん

んんん

（あ、あれだけ射精したというのに、まったく収まる気配がない！
いったいどうなってるんだコイツは…！）





「うあ…体どれだけ出すのだお前は…す、少しは休ませろ…」

(掻き出されてはまた射精される…
「これ以上出されたら…私は…」)

あう?

ぎゅ

みー♡

ぎゅ

ガクガク

ドク

ビッ

ビッ

ヒッ





「まさか、ララ姫の発明か!?!」

じゅん
じゅん

だ?!?

!?

「な!?!、一体何が!?! 結城リトが分身した!?!」

じゅん

じゅん



(だだだだ...1人ですら限界なのに
更に人数が増えるなど...)

やめ

うあ

びっ

「ひあああああ...!」

ちゅ

ズリ

か



「はあはあ、んひいひい!! きもちいいぞ、もっと突けえ!!」

んひい

んひい

グキョッ



「ふっふっふ…私の負けだよ結城リト…
まさか兵器である私を妊娠させるとはな…」
「この私が破壊ではなく、
命を生み出す側になるとは夢にも思わなかったぞ…」

んんん

がっがっ



「だが一人の女いや、1匹のメスに墮とされるのも悪い気はしない！」

「さあ、いつものように私に子種を注ぐがいいー！」

じぞ

じぞ

じぞ

じぞ

じぞ

じぞ

じぞ



「んほおおおおおおおおおおおお……」

「リットのオチンポ汁だいしゅきいいいらい……」

んほお

じゅる

どろ

んほお

どろ

じゅる



END